

新星学寮主催の終戦記念上映会・トークイベント

戦後 80 年、村山談話から 世代間で語り継ぐ「戦争の記憶」

新星学寮 終戦記念上映会・トークイベント

～プログラム～

開会挨拶（新星学寮 寮長 小林タバサ）

第一部 村山富市元首相のインタビュー映像の上映（約30分）

第二部 新星学寮OB・OGによるご講演（約1時間30分）

第三部 懇親会（約1時間）

全体総括（アジア学生文化協会 理事長 白石勝己）



8月16日土曜日、フォーレスト本郷にて、新星学寮主催の終戦記念上映会・トークイベント『戦後 80 年、村山談話から 世代間で語り継ぐ「戦争の記憶」』が開催されました。

本誌では会を企画した寮長（2025年9月現在）の小林タバサさん（東京大学公共政策大学院専門職学位課程）の挨拶と、上映された村山富市元首相（1943年に在寮）のインタビューを掲載します。インタビューは寮の先輩でシンガポールプレス「聯合早報」の日本特派員であるフーチューウェイ符祝慧さんが、2017年、建替えられる前の新星学寮に村山元首相をお招きし行ったもので、この映像を小林さんが編集しました。

（小林タバサ寮長のご挨拶）

1. 本日のプログラム

それでは、新星学寮主催 終戦記念上映会・トークイベント『戦後 80 年、村山談話から 30 年～世代間で語り継ぐ「戦争の記憶」』を開会いたします。皆様、本日は大変お暑い中お集まりくださり、誠にありがとうございます。本日の司会進行を務めます、新星学寮の寮長的小林タバサと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず私の方からみなさまへの開会の挨拶として、今日のプログラムの流れをご説明と、新星

学寮のご紹介をしたいと思います。

本日の上映会の趣旨は、世代間の対話と交流を促進することを通じて、戦争の記憶を語り継ぐ、というのですが、第一部で上映いたします映像は、7年前に、建て替えられる前の新星学寮で撮影された、寮の先輩である村山富市元内閣総理大臣のインタビューで、およそ30分程度の長さです。「村山談話」は、日本の首相が戦前の日本軍の加害の歴史と初めて向き合った公式な文書であり、以後、これまでの歴代内閣も踏襲してきた政府の正式見解です。ビデオでは、村山元総理の学生時代の思い出や村山談話の裏話について、今日のパネリストでもある

符祝慧さんがインタビューを行っています。

第二部でご講演いただきますのは、新星学寮の先輩方のお三方です。簡単に、私の方からご紹介いたします。

まず、井上駿さんは、元農林水産省の職員でいらっしやいまして、コメ栽培の研究をご専門とされ、タイなどでもご活躍されました。現在は技術士事務所 井上農業生物研究所代表をされています。井上さんは新星学寮の中でも最年長の先輩の一人です。今日は若い寮生たちと交流できるのを楽しみにしているとのことでした。

次に登壇されるのは田中宏さんです。田中さんは一橋大学名誉教授、東京大学韓国学研究所センターの特任研究員でいらっしやいます。田中さんは留学生や在日の方々に寄り添う活動に精力的にご尽力されました。

そして、三番目に符祝慧さんがご登壇されます。符さんは、留学生としてアジア文化会館に在寮し、その後新星学寮の世話人として、寮生と生活を共にされた先輩です。現在、シンガポールの新聞社の特派員として活躍されています。お三方から、どのようなお話を聞けるのか、私も大変楽しみにしております。

第三部では立食パーティ形式の懇親会を行います。パネリストの方々とご来場の皆様が、ご自由に交流をしていただくことができる時間となっております。新星学寮の世話人の松岡直子さんと寮生も何名か出席しておりますので、世代間の活発な交流がなされることを期待しております。

プログラムの最後には、全体の総括としてアジア学生文化協会の理事長の白石さんからご挨拶をしていただいて締めくくりたいと思います。

2. 開会の挨拶

それでは、私からの開会の挨拶に入らせていただきます。突然ですが、経営学やマネジメン

はじめに

「団体を定義すること」(P・F・ドラッカー)



我々の属するコミュニティとは何なのか？

我々が追求する目的や使命とは何なのか？

組織マネジメントにも、自己啓発にとっても肝要な問い。

本企画は「新星学寮」を「定義」する考察の過程でもあった

トの父と呼ばれるピータードラッカーという人物をご存知でしょうか。彼は「団体を定義すること」の重要性を述べています。私たちが所属しているコミュニティとは一体何なのか。我々が追求する目的や使命とは何なのか。これは、この半年間、私が新星学寮の寮長となって、常に自問し続けてきたことでした。そして、今回このような一般公開型のイベントを開催するにあたっては、さまざまな外部の方々に向けて、「新星学寮とはいったい何なのか」ということを一生懸命説明し、ご賛同を頂くという経験でもありました。つまり、この企画は、まさに自分たちのコミュニティーである私たちの寮を「定義」する模索の機会でもありました。

3. アジア学生文化協会と新星学寮

新星学寮を定義する前に今日のイベントの共催をしてくださっているアジア学生文化協会の説明をしなければなりません。アジア学生文化協会は通称 ABK と呼ばれているのですが、新星学寮自体は法律上の法人格を持たず、この ABK の傘下にありまして、民法の規定上の扱いは「権利能力なき社団」ということになります。なので、新星学寮の母体団体である ABK をまずご説明します。ABK は、国や地域といった違いを超えた「互惠協力」と「人間的和合」を通じて、日本とアジアの交流や平和に貢献すべく、日本語学校や寮などを運営してアジア文化交流を行ってきた 1957 年創立の組織です。本駒込に所在しています。この ABK のルーツは、実



共催団体「アジア学生文化協会」とは？

国、地域、民族、宗教を超えた「互恵協力」と「人間的和合」を通じて、日本とアジアの交流や平和に貢献すべく、1957年に設立された公益財団法人。日本語学校のほか、留学生と日本人学生が勉学と共同生活を共にする学寮を運営し、留学生支援や文化交流活動を行う。本駒込に所在。そのルーツは、新星学寮にある。

「新星学寮」とは？

大正時代に憲法学者・上杉慎吉が創立した私寮「至軒学堂」を、その弟子の穂積五一先生が「至軒寮」として継承。穂積先生は「アジア解放」を唱え、ベトナム反戦運動を行う学生を受け入れるなどして「留学生の父」と讃えられた。戦後「新星学寮」と改称され、今日に至る。



新星学寮の「目的」とは？

寮規約より：

「新星学寮は、日本とアジアの青年学生が自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め、友愛を培い、平和を希求し、歴史と伝統のある寮を目指す」

は新星学寮なのです。

新星学寮は、大正時代に憲法学者の上杉慎吉先生が創立した至軒学堂が、その弟子の穂積先生によって「至軒寮」として継承された寮です。穂積先生は、ベトナム反戦運動を行う学生を受け入れるなどして、当時のアジアの方々から大変慕われた方でいらっしゃいます。

新星学寮の目的について寮の規約がありますが、そこではこのように謳われています。日本とアジアの青年学生が、自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め、友愛を培い、平和を希求し、歴史と伝統のある寮を目指す、とあります。

寮の中をご紹介しますと、一人部屋の個室があり、各自学業に励み、休息をとる空間になっ

ております。キッチンとダイニングは、寮生の共同生活の中心になっていまして、ここにみんなが集まり食事を一緒に摂ったり、寮会もダイニングスペースで行っていて、いろいろ寮生同士が情報共有など交流する場となっています。

今はこうした立派な施設なんですが、大正時代から続く古い寮のため、木造二階建ての建物は老朽化し、東日本大震災をきっかけに、本格的に建て替えが計画されました。さまざまな方々の募金へのご協力によって、2018年に新築に建て替えられ、2019年から再び寮生が住むことができるようになりました。

本日ご来場いただいた皆様の中にも、建設費



【個室】

学生の本分である学業に日々励み、休息をとる空間。

【キッチン・ダイニング】

寮生の文化と共同生活の中心。皆が集まって食を共にしながら歓談し、情報共有をする場。



用の募金へのご寄付、ご賛同、呼びかけをしてくださった方々がいらっしゃいます。こうした多くの方々のご協力のおかげで、現在、私たち寮生は、綺麗な建物で快適に暮らすことができます。私自身も、大学の近くにあるこの新星学寮に住まわせて頂き、学業に専念することができていますので、日々、感謝の気持ちで過ごしております。

4. 新星学寮とは

新星学寮の寮生が遵守する生活マニュアルという規則集があるのですが、そこには、このような記述があります。

「この寮は、多くの先輩達の心の拠り所となるような歴史のある寮である。建て替えは、多くの先輩方の寄付金と、無償の努力の賜物である。そのことを自覚し、自らの利益一辺倒に陥らず、現在の自分たちの生活や楽しみのみならず、将来の寮の発展及びこの寮を必要としている潜在的な学生たちの益となるように、自らの言動を決定していくようにする。」

この言葉をすごく重く受け止めて、今回このような企画を寮長として出したのですが、この文章を見た時、私は今、大学院で憲法を研究しているのですが、日本国憲法を思い出しました。

憲法 97 条は、人権規定について「人類の多年にわたる努力や試練の成果」であり、それが「過去の世代から、現在および将来の世代に対し、

日本国憲法97条：

「この憲法が保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試練に耐へ、現在及び将来の国民に対し、犯すことのできない永久の権利として信託されたものである。」

日本国憲法前文：

「われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等關係に立たうとする各国の責務であると信ずる。」

信託されたものである」と位置付けています。

さらに前文でも、「我らはいづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」という文言があります。新星学寮の生活マニュアルと同様、今の自分さえ良ければいい、今の自分のコミュニティさえ良ければいいという態度を戒め、他者を尊重し、他者と関わり合いを持ち、共存していくことを掲げています。現在、世界中で民主主義の危機、ということが言われています。最近では外国人に対する排斥運動も起きています。歴史ある新星学寮が生活マニュアルの中で掲げていたり、日本国憲法も掲げているように、他者との共存は、戦争を経た日本が世界に誇るべき教訓であると思っています。新星学寮というのはとても小さなコミュニティですが、とても大切なことをまさに日常生活の中で日々実践しているところではないか、と思っています。

ということで、今一度、新星学寮を定義してみます。私の私見ではありますが、国策を誤った過去の苦い教訓を踏まえて再出発した戦後日本の平和主義の精神に則り、アジア諸国との友好関係の構築を特に希求した先輩方が、現在の学生たちに、その意思を信託し、若い世代がさらに未来世代にそれを受け継いでいく共同体。

新星学寮「生活マニュアル」より：

「新星学寮は、多くの先輩たちの心の拠り所となるような歴史のある寮である。建て替えは、多くの先輩方の寄付金と、無償の努力の賜物である。そのことを自覚し、自らの利益一辺倒に陥らず、現在の自分たちの生活や楽しみのみならず、将来の寮の発展及びこの寮を必要としている潜在的な学生たちの益となるように、自らの言動を決定していくようにする。」

いま一度、「新星学寮」とは？

～私見による定義～

「国策を誤った〈過去〉の苦い教訓を踏まえて再出発した戦後日本の平和主義の精神に則り、アジア諸国との友好関係の構築を特に希求した先輩方が〈現在〉の学生達にその意思を信託し、それを若い世代がさらに〈未来〉世代にも受け継いでゆく共同体。」



これが半年間寮長を務めてみて、私が考えてみた新星学寮とは何かの定義ということで共有させていただきました。

今回は、2019年の建て替え以降、新星学寮として主催する初めての一般公開型のイベントです。企画にあたっては、数多くの方々のお力添えやご助言、そしてご後援を賜りました。お

かげさまで、このような立派な会場をお借りして本日のイベントの開催が実現いたしました。ご協力、ご後援を頂きました全ての団体様、企業様、そして個人の皆様に、この場をお借りして、心より感謝を申し上げ、新星学寮寮長からの開会の挨拶とこえさせていただきます。

それでは早速、第一部の村山元総理のインタビュー映像の上映会を開始いたします。

村山富市元総理 インタビュー映像上映会

インタビューアー：^{ふー ちゅーえい}符 祝慧（シンガポールプレス）

新星学寮と穂積先生の思いで

符：今日は先生に来ていただいて、少しでも当時の様子などを思い出して話していただければと思います。先生は明治大学の時に入寮しましたね。それは昭和18年ですか？

村山：昭和18年（1943年）だな。昭和19年（1944年）に学徒動員でね、石川島造船所に行ったから、それまでの間だね。だから至軒寮で半年くらいかな。石川島造船所に学徒動員で行く前までだからね。半年になるかならんかぐらいだね。

符：多分先生の時と違って、今は留学生

も結構半分以上ですね。

村山：何人ぐらいおるの？

符：いろんなアジアの国々が多いです。先生の時は日本人の学生だけだったんですか。

村山：そうですね。

符：ここで学校に通っていたんですか？

村山：まあ学校にはめったに行かなかったけどね（笑）。

符：あの時代はやっぱり終戦直前ですよ。当時は何人くらい寮にいましたか？20人くらい？

村山：いやいやそんなにいない。5、6人しかいなかったんじゃないかな。その当時はね。

新星学寮が暑かったため、ホテル（フォーレスト本郷）に場所を移してインタビューを再開

符： 先ほども寮でいろいろ話をしていたんですけども、穂積五一先生というのは、村山先生にとって、どういう感じの方でしたか？

村山： それはまあ僕らにとっては遠い人だけだね。穂積先生からまとまった話をね、聞かされたりしたことはないね。だけどやっぱり日常、人に接する穂積先生の姿やらね、あるいはまたお客さんが多かったり、出入りする人がね、そういう人と接する姿を見ておましてね、ああ、この人はやっぱり素晴らしい。誰と会ったってひとつも変わらないからね。素晴らしい人だと僕は尊敬していましたよ。

穂積五一さんは上杉愼吉さんのね、東大の流れだからね。それは上杉愼吉さんというのは天皇主権説でね、機関説（美濃部達吉）と争った人だからね。しかし、そんなことにあんまりこだわった考え方は持っていないと思いますよ。そういう影響を受けることはないもんね。穂積五一さんは、もっともっとそれを超えた立場じゃないですかね。党派もないからね。

政治への関心と北海道旅行

符： 先生はどういうふうに関心の道を歩み始めたんですか？ 誰かの影響とかはありましたか。

村山： 誰かの影響というよりもやっぱり自分の生活環境やらね、それからまた友人の関係やらで刺激されてね、そしてその道に関心を持って入っていったわけだけだね。

だからまあ兵隊に行く前は東京におって、至軒寮にもちょっとお世話になったし、それから



石川島造船所に学徒動員で行って、そこで徴兵検査を受けて甲種合格で都城の部隊に入隊して1年ばかり軍隊生活をしましたね。

それで帰って、さあこれからどうするかなということだといふいろいろ考えたんじゃないけども、とりあえずね、大学に戻ろうと東京に戻って大学でぶらぶらしてましたよね。その時に丸谷（金保）先輩にも会うしね、いろんな人にお会いして、そしてそういうことにだんだん関心を深めてね。まあ東京に来たけども東京で就職したことはないんよ、いっぺんも。何で生活してたのかっていうのは僕もいまだに不思議で分らんけどもね。

それで北海道に2ヶ月間旅行したりしたんじゃないけども。そりゃ僕一人じゃなくて友達と二人で行ったんじゃないけども。その2ヶ月間北海道で何で暮らしたのか、毎日の生活はどうしたのか、あまりよく覚えてないね。第一、無銭旅行だからね。だから青函連絡船に乗るときにね、もうこっちは手ぶらだからね、一番大きな荷物を持っている人の荷物を二人で持ってやろうと言ってね。箱に入れてあげたら「ありがとうございました」と。で、一緒に乗るでしょ。一緒に乗って、そばにおるのにね、皆さん食べるのにね、僕らを知らん顔するわけにはいかんから、



村山元総理と符さん

「あ、食べませんか」と言われて、「いやいや、いただきます、ありがとうございます」って(笑) 無銭旅行みたいなもんだけだね。

それで北海道でね、丸谷さん、丸谷金保っちゅう先輩がおって、「北海道民友新聞」っていう新聞を出しとった。まあ長く続かなかったけどね。その「北海道民友新聞」の新聞発行を手伝おうというんで新聞記者の名刺を作って、その名刺を持って北海道を回ったんじゃない(笑)。で、函館に行って青年学校の校長に、これこれこういう用事で僕は来たと。そしたら非常に関心を持って、興味を持ってね、「まあまあゆっくりしなさい、うちで作っている牛乳だから」って牛乳を飲ませてもらって、そこで2、3日お世話になったのかな。それから北海道の根室からね、回って帰った。だから2、3か月旅行した。

あの当時だからね。千島列島に潜水艦など乗とった皆さんが敗戦になって島から引き揚げてきたわけだよ。その人たちが釧路の旅館でだね、屯して、「もういっぺんかたきとるんだ」って一杯飲んで元気出しょとわ。それで「僕らは東京から来て今北海道を旅行している。皆さんに会って大変嬉しい」と言ってだね、意気投

合して飲んだりしてましたけどね(笑)。

そういう状況ですよ。当時はね。だから北海道にまいりますとね、「内地から学生さんが来た」ってね、もうどこへ行っても大事に迎えられるわけですよ。でもう甘えて、それに世話になってね。で、釧路の旅館に行って、今あるかどうか知らんけど旅館に泊まったわ。石川啄木がだね、その旅館に泊まって、釧路新聞にしばらく通っていたと。で、「僕ら石川啄木の研究に来てる」と

か言ってね、2、3日その旅館にただで泊めてもらって(笑)。そういう旅行をして歩いた。

アジアへの意識と村山談話

符： アジアを一番意識し始めたのはいつ頃ですか。つまり例えば中国とか、そういう国々との関係を意識し始めたのはいつですか？

村山： それはね、僕が20歳ぐらいからじゃないかな。僕は学生時代に韓国から日本に留学している学生の皆さんと接触が多かったからね。だからやっぱり韓国には、いっぺん行きたいなというような関心は持ってましたよね。それで韓国から日本に留学していた学生の友達がおってね、しばらく付き合いしてましたから。だから僕はね、韓国の学生の、若い人の日誌を見せてもらったことがありますけれども、やっぱり日本にはまだ自由があると。日本に何とか留学したいと日記に書いてあるのを見せてもらったことがありますけどね。そういう目でやっぱり韓国のみなさん、若い人は見とったんじゃないですかね。

僕はやっぱり、日本のこれから進む方向と

というのは、なんたってやっぱり隣の朝鮮半島、韓国も北朝鮮も含めてね、朝鮮半島との関係をどう維持していくかと。その隣の大国である中国との関係は一番大事だと。だから日中関係をどう構築していくかと。そういうようなことについては、もうずっと一貫して関心を持ってきたね。

韓国というのはやっぱり日本の隣の国ですしね、歴史的にも交流も長い歴史もある大事な国ですからね。だから日韓関係というものは、どんなことがあっても、良くて悪くても、お互いに相通じおうて、いい時にはお互いに喜び合うし、悪いときにはお互いに悲しみ合う、そして助け合うという環境を作っていくことがやっぱり一番大事だと思ってましたから、終始そういう見方でね、そういう態度で韓国と接してきたつもりですよ。それは南も北も同じでね。

ベトナムは何度が足を運んでね。日本はなんと言ったってアジアの中の一員じゃからね。だからアジアの国から孤立した日本の存在はないと。お互いに仲良くね、励まし合って助け合っていきましょうという挨拶をしてきたけどね。

やっぱり東南アジア、アジアの国にしてみたらね、日本の国はやっぱり一番進んだ先進国なんですよ。ある意味では日本というのは羨望的だったんじゃないですかね。だから日本に学びたい、日本に行きたいという人がアジアの中に大変多かったわね。そういう目でまだ日本は見られたような、そんな時代だったわけですよ。

それがまあ戦争に敗れて、敗戦国になって、日本国民自体がだね、そういう誇りをもう無くしてしまったのね。ある意味ではね。国民の大多数、全部とは言わんけど大多数がね。それからまた立ち上がるわけじゃけども、やっぱりそういう姿を見とってね、アジアの国のみなさんは、やっぱり日本の国は素晴らしいと。僕は東南アジアをずっとまわったけどもね、どこに

行っても日本をそういう目で見てましたよ。

符： 特にアジアにとっては先生が 1995 年に出した「村山談話」はとても大きい存在です。私が知りたいのは、先生は当時、社会党の首相だったんですけども、与党連立の中でこれをどうしても通したい気持ちって、その時はどういうふうにお考えだったんですか。

村山： 僕はね、総理になった時にね、自分で思ったのは何をなすべきかと。この内閣の与えられている歴史的課題というものは何なのかと。その歴史的な課題に応えて、やらなきゃならんことだけはやらせてもらおうと。それをやったらもう俺の使命は終わりだと。長居は無用と。そういう腹を決めて総理になったわけですからね。

だからまあちょうど戦後 50 年の節目ですから、過去のことについてけじめをつける。で、これから日本の国の進む方向というものを明らかにすると。それができればね、この内閣の使命は終わりだと。それだけやらせてもらおうと。そういう腹積もりで僕は総理を受けたわけですから。そういう決心をしたわけですから。だからちょうど戦後 50 年の節目の年でね、この機会に戦後の歴史を振返って、日本は何をしてきたのか、どこに誤りがあったのかということを率直に披瀝して、そして過ちを繰り返さないと。これから日本の国は平和で民主主義をしっかり守っていく、という方向で進んでいくということを明らかにするということで、村山談話というのを出したわけです。

符： 当時自民党も一緒に与党として決定したので、連立政権でですね、そうすると中でも反対の声、賛成の声、支えてる声もあったと思いますが、当時どういう状況でしたか。

村山： まあね、表向きね反対を言いきる人はいませんよ。反対を言いきる人は。だけど腹の中では反対だというのはね、わかりますよね。だから内閣でね「満場一致で通してくれ」と言っ

たわけなんです。満場一致で。これはね、国の方針を世界に明らかにするんだから満場一致で通してくれと。それができなかつたら僕は今からかでも総理を辞めると言うたんじゃよ。だからみな、賛成した。満場一致、「村山談話」は閣議で決まって出した。

それはまあ、なにも戦争はあんまりじゃなかったとか、いい点もあったんじゃと、批判をするやつもおったわ、陰で。あんなものに賛成できるかちゅう言うたやつもおるわ。それは陰で言うだけで表では言えないわね。僕は閣議で決めるときそういう話をしたんです。これはね、僕はもう政治生命をかけている。

符：先生は、あの時この談話を出さなかったら、アジアとの関係は良くならないとお考えだったのですか。

村山：それはそうですよ。やっぱりね、ちょうど50年の節目ですからね。この機会にやはり過去を清算すると。そして日本の国は新しく出直すんだ、ということを世界に明らかにするってことはね、この内閣にとっては大事なことで、もうこれができたらいつ辞めてもいいと、いうぐらいのつもりでやったわけですからね。だからそういうことをよくみなさんも理解して、分かっているからね、反対もおったろうけども、みんな目をつむって賛成じゃ。満場一致。

符：村山先生はそれを日本のためにもやったのですが、その後今見ると村山談話は残っているけれども、今の日本の雰囲気について先生はどういうふうに思っていますか。

村山：やっぱり十分に過去を、歴史を振り返って意識して反省してだね、過ちを繰り返さないようにしようというようなことを思いながらね、やっている人というのは少ないんじゃないですかね。

符：つまり政治の中（政界）ですか。

村山：もうやっぱり今の置かれている状況に

ね、もう浸ってるからね。

符：多分村山先生が首相になった時には、自民党の中でも戦前世代が多かったんですね。今の政界はやっぱり戦前世代がいなくなってきましたので、そのような影響もありますか。

村山：もう今そういうことをあんまりこう振り返って考えて反省したりする人は少ないんじゃないですか。もう過去はさらっと忘れてこれからどうするかということの方にばかり目が向いているんじゃないですかね。だから今あんまり過去を語るなんてことはないもんね。

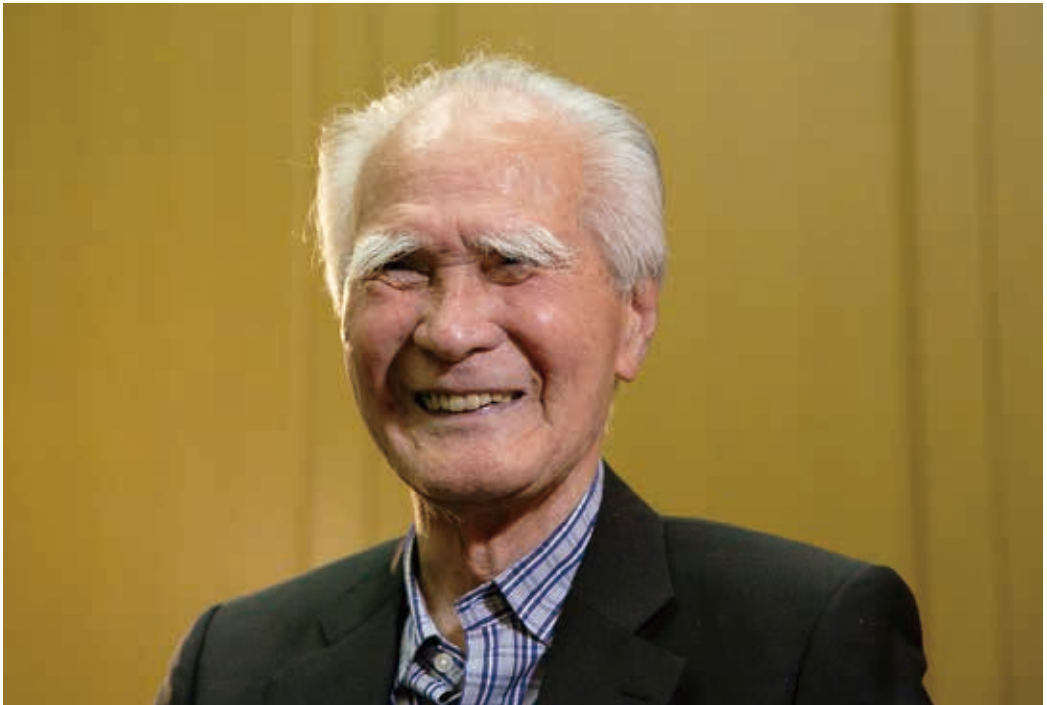
戦後50年の首相の役割

符：新星学寮っていうのはこれから日本人のためだけの寮じゃなくて留学生もいますので先生から新しいアジアの次の世代にメッセージはありますか？先輩として。

村山：もうね、あんまりこだわりなくね、こだわりなく。国が違えばいろんな違いはある。言葉も違うしね。いろんな違いがあるけれど、人間として生きている限りにおいてはね、同じだからね、だからそういうことを乗り越えて、もう人間としてお付き合いができるような、そういう関係をぜひ作って欲しいなと、こういうふうに思いますよ。

符：今現在、一番心配していることはありますか？

村山：もうね、僕は東京に来る前に病院に入って2か月くらいになります。2か月くらい病院に入っているとね、もう老い先も短いからなあ、あと何年生きるか分からん。ね、そんな意味からすると、もうこれから自分自身の後始末をどうつけて人生終わるか、というようなことを考えたりするからね。だからできるだけ皆さんにご迷惑をかけないようにひっそりと静かに死んでいく以外ないなと。



撮影：由井 英

符： 中国ではよくある諺として「時機は英雄をつくる」というのがあります。

村山：「時機は英雄をつくる」ですか。

符： だから寮はですね、戦後ベトナム戦争の時に凄く頑張ってた先輩達もいまして、戦前もそうですけども、これから多分、時代に必要とされる人材は出てくると思います。先生の期待はありますか？ これからも一人の村山首相が出てきて…。

村山： いやいやいや、僕はもうそんなことは考えない。そんな存在でもないしな。もうできるだけ人の迷惑にならないように、一人静かに亡くなってあの世に行くのが一番いいと思う。

符： でも先生が日本の首相になったということは、先生にとってはもちろん大きいことですよ？

村山： 首相になったということ、それが大きなことだと思わないねえ。

符： やっぱり時機の英雄では？

村山： 首相なんていうものはねえ、何でもない。偉くなったとかね、そんなことは思ったことないよ。たまたま役を仰せつかって働いただけであってね、そんなもんだと思いますよ。やっぱり首相に与えられた課題っていうのはあるからね。だから僕は首相になった時に日本の持っている課題は何かと。何をすべきかということ、いろいろ考えたわね。首相としてやらなきゃならないことを。ちょうど戦後50年の節目なんです。僕がなったのはね。だからこの節目に総理になったということは、そういう意味における歴史的な役割というものがある。それはやっぱり過去を振り返って反省をして、これから日本の進む方向というものを明らかにしていくと。そのけじめをつける年だと。どういうけじめをつけるかと、いうんで「村山談話」というのを出したわけです。それで、ある意味ではもうこの内閣のやるべき仕事というのは、ある程度果たしたんじゃないかと。



もう人間としてお付き合いができるようなね

符： 私も日本で例えば歴史のことを言うと、例えば従軍慰安婦のことを言い出すと、けっこう反発がありまして、そういう反対勢力を「怖い」とか、そういうことは？

村山： いやいや、思ったことない、思ったことないわ。そんなことを気にしとったら何もできないからね。やっぱり乗り越えていかないかん。

符： 私の中にいつも疑問があるんですけども、日本の社会にはやっぱり戦争を美化したりする現象があるんですか。先生から見て、いい解決の方法ってありますか。

村山： 従軍慰安婦の問題については、僕はソウルに行った時にはね、それはもう悪かったと、これはやっぱり国の責任だと、謝ると。そして

国が責任を持って決着をするという姿勢だね。そりゃあ中には、言ってきたのがおるよ、「そんなことは償いする必要はありませんよ」って。「ちゃんとカネ払って」と。そういうから、だから「金払って済む問題じゃないんだ」と。言うて僕は断ったけどね。だからあんまり余計な口は入れてくるな、心配せんでくれと。

符： 今、日中関係とか日韓関係というのは、どういう形で持っていけそうですか？

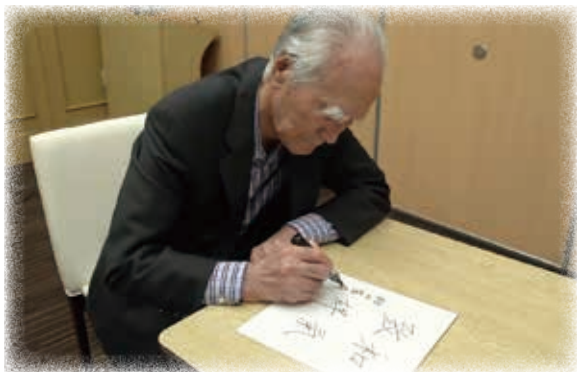
村山： まあ今、そうだね。比較的問題がなくてうまくいっているんじゃないかと思えますけどね、しかし…もう少しね… もう少しやっぱり、大らかな、大きな気持ちになってね、もっと懷を広げて、そしてお互いに裸の付き合いができるような、そういう関係をね、できるだけ、やっぱり隣の国だからね、韓国や中国とはつくってほしいと思いますよ。あんまりこだわりなくね。やっぱり日本にとってアジアというのはね、大事な関係だからね。

符： もうお疲れになったと思います。

村山： いやいや、懐かしいからね。

符： 色々話を聞けて本当によかったです。

村山： お答えになったかどうかわからんけども（笑）。



最後、色紙にお言葉をいただきました。

わ き ち しょう
和氣致祥

（和やかな気持ちが幸せをもたらす）

このインタビュー映像はYouTubeにてご覧いただけます。「東大前新星学寮」で検索、または右QRコードからアクセスが可能です。

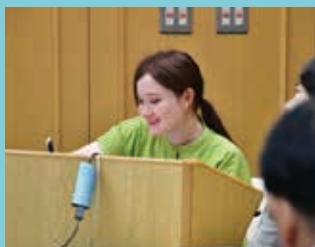


<https://www.youtube.com/watch?v=DE4uhA7eIyc&t=1869s>

新星学寮主催の終戦記念上映会・トークイベント

戦後 80 年、村山談話から 世代間で語り継ぐ「戦争の記憶」

(イベントの様様)



司会進行の小林さんと宋さん

新星学寮 OB・OG による講演



井上駿氏



田中宏氏



符祝慧氏

参加した現役学生（留学生および日本人学生）のみなさん

